

広報  
第51号

# 上野東部だより

2022年3月1日

発行

東部地域住民自治協議会

総務広報部会

伊賀市緑ヶ丘東町920

上野東部地区市民センター内

TEL・FAX 24-3999



## 笑う顔には福が来る 三遊亭楽団治さんによる人権落語講演会

今年も人権月間恒例となっている東部地域の「人権落語講演会」は三遊亭楽団治さんをお招きし、令和3年12月1日(水)東部地区市民センター3階ホールで、新型コロナ感染対策として定員を50名にし、受付にて感染予防対策をして開催されました。

講演会のテーマは「笑う顔には福が来る」です。三遊亭楽団治さんは、三遊亭円楽一門で、天空の城「竹田城」で有名な兵庫県和田山からいらっしゃいました。

前半講演では、人権とは「違いを認めること」。声かけの大切さ、人ととの関わり方についても、決めつけてはいけない、人はそれぞれで、相手は間違えてはいない、自分とは違うという考えをもつということ。等をお話ししていただきました。

漢字の違いに気付かせてもらったり(新聞社によって題字の新が違うこと)、一枚の絵を見てどこを注目するかによって(顔に見えたり、グラスに見えたり)(白いところを見るか、黒いところを見るか)人によって受け取り方が変わることを、わかりやすく面白く伝えてもらいました。

感染予防のためには、家に閉じこもっていては駄目。困っている人には声かけ。憂いでいる人のそばにいる人が優しい人。

人と人とのつながり、しゃべること、人に会うこと、話・和・輪 むすびつきの「わ」が大事。

後半の落語の用意(着物の着替え)をする間、みんなで「星影のワルツ」の替え歌「幸せのワルツ」をマスク着用で合唱しました。新型コロナ感染が広がってから、合唱することができなかつたので久しぶりに声を出して歌い心が晴れるような気持ちになりました。

落語は「子はカスガイ」と言われるほど、大切な大事な宝物であるというお話し。家の柱を繋ぎとめる本物の「カスガイ」をみせてもらい、腕の良い大工の夫の道楽で別れかけた夫婦が子どものおかげで、無事によりを戻す話を笑いつつ楽しみました。

同時に東部地区市民センターで「インターネットと人権」のパネル展示も開催されました。

〈取材：藤井 恵美〉

# 2021東部地区自主防災訓練

非常事態宣言が解除されたため、令和3年11月7日（日）午後1時30分より、東部地区自主防災訓練が村田部会長はじめ防災防犯交通安全部会員17名が出席され開催されました。

本来なら、本年度の防災訓練は9月26日に実施される予定でした。しかし新型コロナの影響で非常事態宣言が発布されていたため中止となりました。

そこで日にちを変更して部会員のみの縮小版として開催されました。伊賀市女性消防団員20名のうち、2名も参加されていました。



## 1. 消火器の使用体験

部会員全員が体験しました。

そこで忘れがちになる「火事やー」の一言で周辺に異常事態発生を知らせることが大切であると、説明を受けました。

## 2. 毛布を利用した、けが人を運ぶ訓練

一つは毛布のみで運ぶ訓練です。両端を3重4重にも折り、そこをつかみ搬送します。

二つ目は棒を利用して運ぶ訓練です。これは毛布の折り目と棒の位置が重要です。物干しづおは各家庭にはあるものですからそれを利用するといいですよ、と指導されました。

三つめはTシャツと棒を使用して運ぶ方法です。

## 3. 非常持ち出し品は準備しておくこと

非常持ち出し品の中身は

①水(2Lか3Lか／1人) ②非常食 ③携帯ラジオ ④新聞紙  
⑤ポリ袋 ⑥ラップ ⑦軍手 ⑧救急セット ⑨レインコート  
⑩ヘッドライト ⑪携帯トイレ ⑫大きなハンカチ などを入れておくようにとの指導がありました。

## 4. 水タンクの運搬

18Lタンク、10L袋タンク、6L袋タンクをそれぞれ運ぶ体験をしました。

その中の6Lのリュック型のものが非常に運びやすい、と興味を持ちました。ちなみにこれはネットで買えるようです。

## 5. あとは防災備品の点検、整理です。

アルミリヤカー、テント3点、シート等の整理をしました。また、ボンベ式の発電機のエンジンをかけ、いざというときのために準備をしました。

そのなかで注意をひいたのは、カセットボンベ型発電機です。非常に静かで、避難所等で使用するのにも適していると感じました。



消火器の使い方説明



消火器放出訓練



簡易担架(毛布)棒がない時、人を運ぶ訓練



簡易担架(毛布)棒がある時、人を運ぶ訓練



簡易担架(Tシャツを活用)の作り方



防災グッズを覚え、準備しよう



飲料水の運搬訓練



リュック型運搬飲料水



防災備品の点検(テント、リヤカー等)



カセットボンベ燃料の発電機

今年は東部地区の防災訓練はできませんでしたが、防災防犯部会員が集合して突然やってくる災害に対して準備・訓練を行っていただいていることに感謝を感じました。

各個人も防災を意識して、避難の準備を日頃からしておくようにしておいてください。〈取材：山本 史規〉

## 街角の話題

# 古民家を8年かけて改修 まちかど博物館 タマカフェ★ギャラリー878

上野車坂町 造形作家 星 いっぺいさん  
帽子・布小物作家 タマヨシコさん



### 陶芸、木工品、照明器具、改装の技術は？

子どものころから手先が器用で、また好きであったので、独学で思いつくままに古いものに新しいものを積極的に取り入れています。「いっぺい風」です。陶芸の窯は庭に置いてあり、また、作業場には多くの種類の工具が備えられており、細かい作業をすることができます。



### ■ オープンの経緯は？

自然環境の変化や創作に行き詰まりを感じ、占いで吉の方角にあったところに上野がありました。愛知県一宮生まれで、育った場所が平野で、山が近くにある風景に惹かれ、「上野市」を唄う西岡たかしのファンであったことが決め手になりました。そこで見つけた築百年の古民家を8年かけて床を張り替えたり、ステンドグラスを施したり、家具や照明を一人で改装して、ようやく完成しました。



### ■ 展示品は？

陶器、木工品、ステンドグラス、手づくり照明などは、いっぺいさんの作品で、帽子はタマヨシコさんの作品。それらが所狭しと並べられています。

木工と陶板を組み合わせたり、ステンドグラスを加えたりと、インスピレーションに任せて、古いものに新しいものを積極的に取り入れています。

### ■ 望むことは？

改修が完成しましたが、継続しつづけることが大切と考えています。古民家の落ち着いた雰囲気、照明、家具等をぜひ多くの人に見て、感じてもらいたいものです。

開館日は、土・日の午後1時～5時で、1、2、8月は休館します。

問い合わせ先 ☎0595-74-0924

(取材:安場 豊)

# 避難所マニュアルについて ⑯

東部だより第35号から避難所マニュアルの重要なところを掲載しています。

第1回は「各自治会別災害時の避難場所」

第2回は「避難所開設・基本方針について」

第3回は「災害発生～避難所開設・運営・撤収の流れについて」

第4回は「災害発生～開設までの流れについて」

第5回は「災害発生～開設までの役割による人の流れについて」

第6回は「避難所開設～運営の情報伝達のしくみについて」

第7回からは「災害発生したらまず身の確保・避難～避難所運営体制づくり～避難所運営～避難所撤収・閉鎖」

「避難所運営体制づくり、各班の役割」

「避難所運営に当たって配慮すること」

「避難所管理について」

今回は避難所マニュアル最終回、「福祉避難所・福祉スペース・安定期以降の取り組み」を掲載します。

## 福祉避難所・福祉スペース

次のような考え方で福祉避難所、福祉スペース（福祉避難室（仮称））が設置されます。

救護・要援護者班を中心に連携を図りましょう。

### ● 福祉避難所の考え方

#### 福祉避難所とは

- 一般の避難所において、避難所生活が困難な高齢者や障がいのある人など、特別な配慮を必要とする方が避難する施設です。
- 福祉避難所は、必要に応じて開設される二次的避難所です。

#### 対象

- 高齢者、障がいのある人、妊産婦、乳幼児、病弱者など、避難所生活において特別な配慮を要する方が対象です。
- 要援護者の状態に応じて、要援護者の介助者1名についても、福祉避難所への避難が可能です。

#### 福祉避難所への避難の流れ

- ①身の安全の確保を最優先に、まず一般の避難所に避難。
- ②一般の避難所において、保健師等が介助者の有無や障がいの種類・程度に応じて福祉避難所への受け入れを調整し、対象者を決定。
- ③スタッフの配慮など受入態勢が整ったところで対象者を福祉避難所へ家族や地域支援者が搬送。但し、家族が搬送できない場合は状況に応じ福祉車両等で搬送。

### ● 福祉スペース（福祉避難室（仮称））の考え方

福祉避難所において、対象者すべてを収容することは困難であるとともに、避難所生活の長期化等により、特別な配慮を要する方が増加することが想定されるため、一般の避難所の中の福祉スペースとして「福祉避難室（仮称）」を設置します。

	軽 度	中 度	重 度	対 象
福祉避難室(仮称)	○			比較的介護度が軽度で専門的ケアは必要ではないが、配慮を必要とする方
福 祉 避 難 所		○		要介護・障がいの程度が高く、専門的なケアなどの特別な配慮を必要とする方
緊 急 入 所		○	○	身体状況の悪化等により、福祉避難所での避難生活が困難な方
緊 急 入 院		○	○	医療的な処置や治療が必要な方

## 安定期以降の取組

### 安定期から撤収期

安定期(3週間目以降)では運営体制の見直しを図り、相談体制の確立、こころのケアなどを図るとともに、避難者の自立へ向けた取組にあわせて、避難所の撤収への合意形成を進めます。

#### ●避難生活長期化の注意点

- 避難所での生活が長期化した場合は、災害対策本部と相談し、ついたてやスペース配分の見直しなどをします。
- 長期化に伴って家具や備品の増加が考えられ、スペース配分が不均衡になる場合も起こることから、可能な限り、収容人数に合わせた部屋の配分を家族単位に構成する方向が望まれます。
- 自分勝手に自炊などしないよう、炊事場等の設置ルールなど場所の指定が必要です。
- 避難所生活が長引くことによるストレスなどから、些細なことがトラブルになることもあります。避難者の変化に注意が必要です。

### 避難所統廃合に伴う移動

施設の再開に向けて、避難施設の縮小・統合が進められる際は、避難者に対し部屋の移動などについて広報しておきます。

避難所を移動することが決定した場合は、移動の日時、荷物の搬送について避難者に対し周知しておきます。

### 避難所の撤収・閉鎖

避難所撤収が決定した場合は、撤収の準備に取り掛かります。まず、避難所の閉鎖時期と撤収準備などについて避難者に説明します。

回収が必要となる物資等がある場合は、災害対策本部へ連絡し、避難所施設内の片付けや清掃を避難者の協力を得て行います。

避難者の撤収が確認された後、避難所運営委員会は避難所閉鎖日をもって終了します。

今回掲載をもちまして、避難所マニュアルについてを終了いたします。今までに掲載しました記事は、「東部地域住民自治協議会ホームページ」の東部だより第35号から第51号にてご覧できますので、参考にしてください。災害が大規模になれば、市内全域になるためこの状況から生き延びるためには、自らもしくは地域の力により回避するしかありません。今後も避難所マニュアルに目を通していくべき住民の一人一人が自助・共助がいかに大切であるか再認識し「住むまちを地域で守る」という防災意識の高まるることを願っております。

# ホタルが住む川をめざして クリーンウォーク

冬晴れの令和3年12月5日(日)午前9時~10時30分東部地域住民自治協議会、環境保全部会主催のクリーンウォークが矢谷川とその周辺で実施されました。参加者は子ども連れ家族等41名参加されました。この日は45ℓの袋、20袋分のゴミが回収されました。またこの日の様子を伊賀上野ケーブルテレビが取材に来られ、その日の夜午後7時から放映されました。

クリーンウォークは平成19年から開始し15年目に入り、年6回、矢谷川とその周辺は4回、市街地で2回実施し、空き缶、空きビン、ペット

ボトル、ナイロン袋、たばこ、自転車、タイヤ、電化製品、ケース、傘等様々な大きい物まで毎回15袋~20袋のゴミを回収(軽トラック一杯分)しています。また小学生に書いてもらったポスターを矢谷川の橋のたもとに設置して河川美化啓発も

実施しています。西口環境保全部会長は「たくさんの方が日曜日の朝早くからご参加いただき、最近は子ども連れの家族の参加もあり、継続してきたことが地道な成果だと思う」と話されていました。

この日のクリーンウォークに東部地域住民自治協議会 南会長も参加され、「皆さん方のクリーンウォーク活動で河川及び周辺の美化が維持向上してきた。しかし自転車等の大型ゴミが投棄され、水分の多く含まれた「たい積土砂」が蓄積され、河中に入つての処理が困難になってきた。そこで河川管理者の県に「たい積土砂」の除去を平成29年に依頼し、翌30年から「しゅんせつ」工事が実施され、現在は50%ぐらいで竣工まであと3年~4年はかかる予定です。完成後には、JAいがふるさと付近(これは水辺公園秋の広場付近)にホタルが飛び交う河川とするために、カワニナ(ホタルのエサ)を他の河川より移したり、護岸法面に花木類を植生させたり、砂利を敷き水流を蛇行させ、ホタルの生息できる条件づくりをしたい、それまで皆さん頑張ってください。」と話されました。

矢谷川とその周辺のクリーンウォークは、東部地域住民自治協議会の環境保全部会員、地域のボランティアの皆様方により、継続され確実に維持向上しつつあります。地域住民の皆様方の更なる「河川美化」の意識を高め、「ホタルの飛び交う矢谷川へ」の取り組みにご協力よろしくお願い致します。



河川美化啓発看板



東部地域住民自治協議会 南会長



環境保全部会 西口部会長



「たい積土砂」除去作業



「たい積土砂」除去完了河川

〈取材：縄手 稔〉

## 編集後記

昨年、その年の世相を漢字1文字で表現する「今年の漢字」は「金」でした。東京オリンピック・パラリンピックで多数の「金」メダルを獲得したこと、大谷翔平選手が大リーグMVPに選ばれるなど、各界で数多くの「金」字塔が打ち立てられたこと、また給付金や新紙幣、新500円硬貨など、お「金」にまつわる話題が多かったことなどが多く

寄せられたそうです。

私自身、漢字目標を「勝」として、自分自身に「勝」を入れ1年間生活しました。達成感もあり清々しく1年を締めくくることができました。

今年は「幸」の文字で生活しています。暗い話が多い昨今ですが、世の中が幸多き1年であってほしいと思います。

次年度も上野東部だよりをよろしくお願ひいたします。

(志賀一鉄)